

ひたちサンドアートフェスティバル 2016

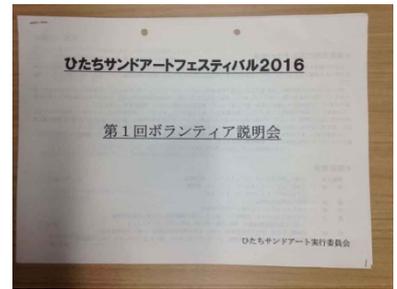
2016年7月17日(日)に、ひたちサンドアートフェスティバル 2016が開催されました。ひたちサンドアートフェスティバルとは、地元である河原子海岸で開催される、夏の海の祭りです。砂浜に大型砂像を多数作成するほか、各種スポーツイベントや音楽イベントを盛り込み、海開きを迎える河原子海岸をにぎやかに彩ります。イベントの締めは、曲に合わせて一斉に花火を打ち上げる、10分間の劇場型花火です。今年も、5万人を超える方々が来場するなど、イベントは大盛り上がりでした。

サンドアートの意義は、日立市内で暮らしながらも普段は接する機会が少ない多様な人々が、一つの目標に向かって協働し、「地域の縁」を紡いでいくことにあります。サンドアートの実行委員会は、日立青年会議を中心とした、地域の若手たちです。本学の地域連携センターも、実行委員会に加わっています。また、本学の学生ボランティアは、イベントスタッフの主力として、長年にわたりサンドアートを支えています。今年も、本学のボランティア学生108名(＋当日飛び入り参加10名)、および本学の教職員数名が、スタッフとして参加しました。

ひたちサンドアートフェスティバルは、今年で7回目となる息の長いイベントです。しかし、持続性の点で課題が残っています。同イベントは、行政からの補助金をほとんど受けていません。サンドアートは、地域の方々からの協賛金と、ボランティアで働くスタッフたちの熱い想いの上に成り立っています。開催費用の確保は、毎年大きな課題となっています。

今年も、新たな取り組みとして、一般来場者の方々に協賛金として絆リング(前売り500円、当日1,000円。子ども無料)の購入をお願いしました。まだまだ採算性を確保するには至っていませんが、来場された方々にご理解いただき、絆リングを購入してもらえたことは、大きな進歩です。これからもサンドアートが継続し、「地域の縁」が広がっていくことを、強く願っています。

【イベント準備(本番2カ月前)】



1. 学生ボランティアの募集

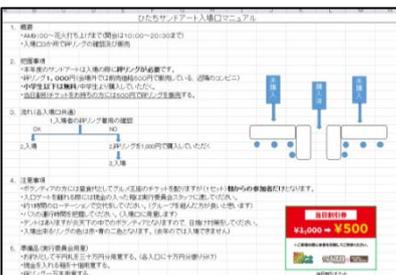
サンドアート実行委員会は、本番の3か月前から活動を始めます。5月下旬になると、学生ボランティアの募集が始まります(上記は、学内に掲示したポスターです)今年も、途中辞退者も含めると、130名以上のエントリーがありました。

2. ボランティア説明会

ボランティア学生を集めた説明会の様子です。こうした説明会を、合計4回開催しました。学生たちとの連絡には、LINEを用いました。

3. ボランティア説明会

説明会ごとに上の写真の様な資料を作成し、配布しました。これにより、初めてボランティアに参加する学生にも、ボランティアの仕事を把握してもらえるようになりました。



4. ボランティア説明会

第2回説明会資料から抜粋。学生ボランティアは、入場ゲートやトラクションなど、担当別に6つのグループに分かれています。仕事内容は、グループ毎に細かく決められています。グループ内での情報伝達は、学生リーダーが担当します

5. ボランティア説明会

第4回説明会資料から抜粋。サンドアートのボランティアは、炎天下の仕事です。各グループは、3チーム構成です。学生たちは、適宜休憩を取りながら、チーム単位のルーティーンで仕事をこなします。

6. スタッフTシャツと絆リング

サンドアート・ボランティアのスタッフTシャツと絆リングです。今年のTシャツは、黒をベースとしたカッコイイものでした。絆リングは、ゴム製のブレスレットです。入場券がわりに着用します。

【砂像の作成開始（本番 1 週間前）】



7. 会場設営

本番 1 か月前になると、イベント会場となる河原子海岸で、会場設営が始まります。会場を清掃した後、大型砂像の土台作りが始まります。



8. 砂像の作成

土台作りが始まりました。木枠に積まれた砂を重機で圧縮し、土台を作っていきます。圧縮されることで、砂の土台はある程度の強度を持つようになります。



9. 砂像の作成

今年は、プロの彫刻家である保坂俊氏と、台湾の彫刻家である王松冠氏が、大型砂像を作成しました。王氏の弟子にあたる丁元茜氏と陳怡静氏も、砂像を作成しました。



10. 大型砂像

大型砂像づくりは、夜を徹した作業となります。いずれも、芸術性の高い力作となりました。まじかで見ると、大迫力です。



11. 大型砂像



12. 大型砂像



13. 大型砂像

砂像作成期間中は、テントを設置して、スタッフが 24 時間常駐します。差し入れ等を持ってくる青年会議所のメンバーたちや、作業現場を見学に来る地元の方も多いため、夜の河原子海岸はにぎやかです。



14. 大型砂像

頬に回転灯を内蔵した、新しいタイプの砂像です（笑）。



15. マスコミの取材

NHK を始め、多くのマスコミが取材にやってきました。本番前 1 週間は、連日のようにテレビ取材が来ていました。本学の学生ボランティアたちも、テレビ取材を受けていました。

【前夜祭（本番1日前）】



16. 前夜祭

今年初の試みとして、地元出身の著名なDJやミュージシャンによる、前夜祭を開催しました。



17. 前夜祭

イベントスタッフもノリノリでした（笑）

【イベント本番】



18. 茨城キリスト教大学学生ボランティア 2016

早朝の河原子海岸での集合写真です。イベントスタッフの主力は、若さあふれる本学の学生達です！当日は、大学のオープンキャンパスと重なりました。オープンキャンパスを手伝う学生たちも多く、彼ら・彼女らは午後になってからこちらに合流しました。また、卒業生たちも駆けつけ、一緒に働いてくれました。



19. 学生ボランティア 2016

韓国やベトナム、インドネシア、キルギス、アメリカなど、様々な地域から来た留学生たちも、ボランティアに参加してくれました！



20. 会場設営

開場前の河原子海岸で、グループごとに会場設営をはじめました。学生たちは、マニュアルに無い仕事も臨機応変にこなしてくれます。さすがICの精鋭たち！



21. 会場設営

こちらは海アトラクションの担当エリアです。アクアボールの準備が完了したようです。



22. 入場ゲート

会場には3か所の入場ゲートが設けられています。ここで来場者に絆リングを確認・購入してもらってから、入場いただく流れです。多少のトラブルはあったものの、来場された方々は、快くリングを購入してくれました。



23. 大型砂像

みなさん、興味深そうに大型砂像を見学しています。



24. 大型砂像



25. 大型砂像



26. 小型砂像の土台作成

学生たちが、小型砂像の土台を作っています。毎年ボランティアに参加している学生も多いので、土台作りは手慣れたものです。



27. 小型砂像

子どもたちが、小型砂像づくりを体験しています。



28. 小型砂像

子どもたちの作品が、砂浜に並んでいます。



29. 来場者

今年は、来場者に協賛金を募っての開催となりました。来場者の減少も予想されましたが、実際には例年以上の方々が遊びに来てくれました。



30. 飲食ブース

会場には、28の飲食ブースが設けられています。市内の飲食店が出店し、様々なアイディア料理を販売しました。



31. 屋台村グルメ王座決定戦

グルメ王座決定戦も実施しました。学生たちが、投票用紙を集めています。



32. 水鉄砲サバイバル

水鉄砲サバイバルの受付です。学生たちが元気に受付をしています。満員御礼でした。



33. 水鉄砲サバイバル

子どもたちは、おのおのが頭に的を付けて、水鉄砲で遊びます。でも結局は、大学生のお兄さん・お姉さんたちが、子どもたちの標的になってしまいます(笑)。



34. 水鉄砲サバイバル

学生たちも楽しそうでした。



35. 入場ゲート

男子学生たちが、入場ゲートの前で、絆リングの確認・販売をしています。炎天下での重労働でしたが、頑張ってくれました。



36. 本部テント

本部テントには、問い合わせ客やケガ人など、多くの方がひっきりなしにやってきます。こちらも大忙しでした。写真は、迷子の子を本部テントで保護している様子です。



37. 協賛企業シート

大口の協賛を頂いた企業向けに、特別のシートが設けられています。そちらへのお客さんの誘導も、本部スタッフの仕事です。



38. 海アトラクション

海岸では、アクアボールやバナナボート、スカイステージなどのアトラクションが行われました。こちらも満員御礼でした。



39. 海アトラクション

海で遊ぶ子どもたちも大勢います。ライフセーバーが、子どもたちを見守っています。



40. イベント会場

夕方になると、来場者の数がさらに増えました。



41. ステージイベント

メインステージでは、地元出身者を中心に、全国で活躍する様々なミュージシャンがパフォーマンスを行いました。大賑わいでした。サブステージでは Kid's stage が開催され、子どもたちがダンスなどを披露しました。



42. ステージイベント

かなり盛り上がっています。



43. 劇場型花火

劇場型花火の時間が近づくと、会場はさらに込み合いました。足の踏み場もありません。みんな、花火の打ち上げを待っています。メインステージでカウントダウンを行ったのち、花火が打ち上げられます。



44. 劇場型花火

(ひたちサンドアートフェスティバル公式 HP より抜粋)

夜の 8 時過ぎに花火が始まりました。音楽に合わせて打ち上げられる劇場型花火は、まさに圧巻です！

45. 劇場型花火

学生ボランティアは、会場の警護もかねて、最前列での花火を鑑賞します。まじかで観ると、花火が真上に降ってくるような、すごい迫力です。感動して涙ぐむ学生もいるほどです。花火は、重労働をこなした学生ボランティアに対する、ささやかなご褒美でもあります。



46. サンドアート終了

劇場型花火が終わると、サンドアートは終了です。帰宅する人の流れが落ち着くまで、会場に残って祭りの余韻を楽しむ来場者も大勢います。



47. 撤収作業

祭りが終わると、スタッフは速やかに撤収作業に移ります。テントの解体やゴミの回収などを、学生たちはテキパキとこなしていきます。撤収作業は、終電の時間まで続きました。



48. 卒業者たち

今年も、大勢の卒業者たちがイベントを手伝ってくれました。上の 3 人は、昨年まで学生リーダーとして活躍していた、本学の OB たちです。彼女たちの活躍により、サンドアート・ボランティアの基礎が出来上がりました。感謝です！ 社会人となった今でも、サンドアートに駆けつけてくれます。

本学と日立青年会議所による、これまでの地域活性化事業はこちら！

http://www.icc.ac.jp/shougai/hitachi_kyodou.html

ひたちサンドアートフェスティバル公式 HP はこちら！

<http://hitachi-sandart.jp/>